



なにしょんな

ふるさと会よりご報告

会長(高松市観光大使)



池田 克彦
桜のシーズン到来と思いきもう既に初夏の兆しです。会報も34号を迎えました。

東京オリンピック迄約3年都内各会場はそれに向け工事が盛んになり始めています。後述しますが今年は正月早々塩江ご遺族の方々と念願のインパール作戦地慰霊の旅を実施しました。3月には市策定の塩江温泉郷観光活性化基本構想が発表されました。さて、県市等の広報やホームページから地元の動きとふるさと会活動をご報告します。

1. 県29年度当初一般会計予算(4613億前年度比▲2.1%)人口減少対策・地域活力向上を戦略的に進める～5つの重点事業～ 地方版ハローワークによる県内就職の促進 オリーブ産業強化プロジェクトの推進 交流人口の拡大推進 健康・生きがいがづくりの促進 悲惨な交通事故の減少を挙げています。

2. 市29年度当初一般会計予算概要(1637億前年度比▲0.9%)まちづくりの目標1 穏やかにいきいきと暮らせるまち 目標2 心豊かで未来を築く人を育むまち 目標3 産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち 目標4 安全で安心して暮らし続けられるまち 目標5 環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち 目標6 市民と行政がともに力を発揮できるまち 他重点事業及び新規・拡充事業等が予定されています。

3. 塩江温泉郷観光活性化基本構想が策定されました。高松の奥座敷、塩江温泉郷は、美しい川と緑溢れる山々、歴史ある温泉資源等を活用することで、「日常から離れた時間の中で、感謝と人の温かみを感じる」場所(場づくり)を目指します。構想は、基本構想策定の目的、観光の動向と塩江温泉郷における観光の課題、基本方針と戦略の方向性、塩江温泉郷活性化施策の目次構成で市役所ホームページに掲載されています。

4. 世界に誇る「希少糖」の国際希少糖研究教育機構が香川大学の呼びかけで誕生しました。1980年代香川大何森教授により果糖から希少糖を作り出す方法が発見され、人類にとって役立つ糖として認識され始め、カロリーになりにくい甘い食品として好評、今後、医薬品・農業・工業分野に急速に広がります。香川県の超名産品です。

5. 12月市議会定例会にて塩江町に関して一般質問。多くの悲願である、塩江地区奥の湯温泉施設の存続について(佐藤好邦議員)市答弁...様々の課題を総合的に勘案。奥の湯温泉の源泉は、本市の貴重な温泉原資であることから、何らかの形でこれを生かすべく具体的に検討を進めていく。本市の人口を増やすために、合併前の塩江町の施策を手本とする考えは(藤沢やよい議員)市答弁...現在、たかまつ創生総合戦略に基づき各種子育て支援事業に取り組んでいるが、これらはいずれも同町が取り組んでいた施策の理念に通ずるものであり、今後とも施策の充実に取り組んでいく。質疑では、塩江分院建替えの整備方針を早急に明らかにすべき(岡田まなみ議員)市答弁...付属医療施設の新たな整備地を、現塩江分院用地などの市有地も含め年度内には決定するよう進めており、塩江地区における「地域包括ケア」の中心的役割を担う施設として早期に整備していく。

5. 山田蔵人墓地・保存について、コミセン熊野センター長と岩部神社側と協議し塩江町歴史施設として保存の一環で今後継続検討することになりました。塩江町歴史資料館に防犯用カメラ設置費用と

して65,000円ふるさと会から寄付しました。

6. 特定非営利活動法人(NPO)アジア太平洋英霊顕彰会主催インパール慰霊(ご遺骨情報収集調査)にふるさと会より寄付50,000円と塩江町ご遺族代表で参加された黒川富彦さんに所要の支援を行い11月コミセンでインパール報告会を実施しました。

7. 別海・東京ふるさと会、中標津ふるさと会、標津ふるさと会の総会等に参加しふるさと交流を図りました。

8. ふるさと会役員会を開催し27年度・28年度事業報告・決算と29年度・30年度事業の検討を行いました。

特集 インパール作戦地の慰霊

今年1月インパール作戦で、インド領コヒマから善通寺編成の山砲兵31連隊が撤退した地を訪問しました。総勢8名、現地で通訳(ガイド兼)1名と船を借り上げ、ビルマ(現ミャンマー)の三大河川であるチンドウイン河を下りました。参加された方の寄稿文をご紹介します。ご寄稿者に本紙面を借りて御礼を申し上げます。

インパール作戦地慰霊の縁

ふるさと会会長 池田 克彦

ミャンマーJAIC業務の縁で、友人から日本軍の戦いなどの話を聞き、慰霊・ご遺骨情報収集調査のためのNPO法人を立ち上げた。初年度と言う事もあり、行き先を凄惨苛烈な激戦地インパール作戦地に決めた。はじめは33師団(通称号・弓)撤退ルートを検討したが、友人から聞いた「トンへ」という地名と関与部隊を調べたところ、31師団(烈)の存在が分かった。又インパールビルマ慰霊碑が香川県高松市の何処かにあることを知り、調べたら何と！我がふるさと塩江町の上西柿野と言う丘に碑があった。碑には「尾崎緑と建立」とあり、この人物を国会図書館・靖国神社偕行文庫等で調べ、この人が我がふるさと出身の香川県善通寺編成山砲兵31連隊7中隊陸軍軍曹でインパール作戦生き残り兵であることが分かった。知らなかった！驚いた！早速地元遺族会に連絡、既に尾崎軍曹は亡くなられていたが、奥様と実妹にお会いした。インパール作戦で我がふるさとから6名戦病死を出していることが分かり、ご遺族の黒川富彦さん(故陸軍准尉黒川健太郎さんの甥)にも出会った。どうも父方の遠縁にあたる様だ。ガダルカナル島慰霊の縁で、曹洞宗僧侶の飯岡さん、吉宮さん、石田さんや島村さん、渡邊さん、五十嵐君に呼びかけ、ご遺族黒川さん含め8人編成で今年1月6日出発した。善通寺編成の山砲兵31連隊は、元々40師団(鯨)の山砲兵部隊で中支に駐屯していたが、ビルマ戦用に31師団(烈)編成替えになった部隊であった。ビルマ慰霊碑(佐藤中将追慕の碑)の佐藤中将の墓地がある山形県余目町乗慶寺に我々インパール作戦地慰霊を報告し、日本出国後、インド国境沿いの乾季の穏やかなチンドウイン河、トンヘ〜タウンダット〜シッタンを船で下りながら、夫々の村を訪ねた。親日的で僧侶・村長・長老・村人達が我々一行を待ち受けてくれた。有難い。長老・村人の話から日本兵は食糧補給なく凄惨苛烈な状況下で、雨季で豪雨の中、多数の戦死者を泣く泣く置いて撤退して行った兵が、闇夜、水位が上がり暴れ川になったチンドウイン河を渡河する姿を想像した。その日本兵の姿を地元ミャンマーの人が忘れず語り継いでくれたのが、今日我々を迎えてくれた態度



に繋がっている様に思えた。そして佐藤中将の師団命令のお蔭で撤退し、辛うじて生き残った尾崎緑軍曹が我がふるさとの丘に建立したビルマ慰霊碑の意味が分かった。今回の慰霊で日本兵のご遺骨情報収集調査を更にせねばならないと思ったと同時に、自分の意思に関係なくドンドンと物事が進んでいく妙な縁を感じた。辺境の地でこれまで入境が出来ず、今回辛うじて渡航許可を得たが、旅終了後、又入境不可となったと聞き、何かの縁で引っ張り一瞬間扉開された地への不思議な旅だった。



戦死した叔父の地を訪ねて

黒川 富彦

この度、インパール遺骨収集のたびに皆様(8名)と共に参らせていただいて、とても身の引き締まる思いが致しました。慰霊の旅の声があった時は、藤沢遺族会長からビルマに行かないかとお話があり、その数日後、池田様と会って、甥(故黒川健太郎)のお話をしましたところ、池田様の熱意に触れ、ふるさと思いがとてもすばらしく、僕もふるさとへの思いが強くインパールに行く決意しました。僕の甥、黒川健太郎が山砲兵第31連隊所属にてインパール作戦で戦死した地に行き、どうしても自分の目で現地を確認したい気持ちでした。1月5日から1月20日の日程で決まり、トンヘ、タウンダット、シッタン、カレワ、実際現地に着いて、私が思っているより、日本と比べ、昭和初期に戻ったような気がしました。たしかに、昔のまま、現実はずい所に来たなと思いました。インパール作戦時を考えると、戦いに行った人は、もっとすごいなと思い、身が締まる思いが致しました。



特に、心に残るはシッタンに行き、黒川健太郎が通った道、村から山に行く道を、同じく歩くとは夢にも思っていなかったもので、少し涙が出ました。シッタンの皆様には、大変お世話になりました。又、機会があれば甥の遺骨に(ピンレブ)に行き慰霊し遺骨収集をしたいと思っています。最後になりましたが、この度、インパール作戦地慰霊ご遺骨情報収集調査に際しご協力とご援助を頂いた関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。(香川県高松市住)



トンヘ船着場



チンドウイン河

インパール慰霊と情報収集の旅

石田 公也



1、チンドウイン河下りで知ったミャンマー文化

平成29年1月6日。成田発の全日空機でヤンゴンに到着して1泊後、ローカル航空で北西の町ホマリンでさらに1泊、ここから、チンドウイン河を独特の船で下る「インパール」の序章が始まった。この船は、CCRの「プラウドメアリー」のようにノスタルジアを誘う雰囲気があれば良いのだが、日本の船舶基準や安全管理の面からは外れたものであった。この船のことを書いたらきりがないので止めておこうが、この船の2泊3日の旅で感じたことは、行く先々が、昔の日本の田園風景や田舎の町を彷彿させ、郷愁を誘い、時には文化や習慣の違いに驚きの連続であった。一つだけ書くと、最初の夜で午前1時頃、寝床からトイレに行こうと思い、甲板に出て驚いた。霧が立ち込めて「五里霧中」どころか、視界は50センチしかないのだ。ここを30メートル位歩いてトイレに行くには、甲板の幅30センチを手摺に沿って、透明度ゼロのチンドウイン河を見ながら歩かなければならない。よく考えて近くで用を足すことにした。(ちなみに、例えトイレに行っても、河の流れのように同じである。また、この水で現地人は、食器を洗い、入浴し、洗濯し、ゴミまでも捨てているのだ。)翌日も深い霧で、同じ状況であった。後で解ったことは、日中30度になっても夜間は15度位になる気候上、水面から立ちあがる水分は、霧になるということ訳である。

2、眠れる兵士の慰霊と白骨街道

情報収集の詳細は報告書に示されると思うので、ここでは省略するが、一番の大きな成果は、2日目のタウダットだと思ふ。3人の日本兵を埋葬した場所を、村長以下4名で山の中を1時間かけて歩いて案内してくれた。そこは、木々が茂り、言われなければわからない場所であった。ここは、まだ日本からの慰霊はないはずである。生きて日本に帰らなかった兵士に、哀惜の念は堪えないが、安らかな眠りをと慰霊した。白骨街道と呼ばれる撤退のルートは、1本ではなく数多く存在する。撤退は、アラカン山脈がそびえる、山あり谷ありの難関を越えなければならぬので、大変な苦行だったはずである。我々は、山脈は眺めただけで、歩いたのは、その一部で、少し歩いただけでも汗が出た。多くの兵士は、集結場所のチンドウイン河まで、たどり着けないで亡くなっている。また、先ほどの慰霊場所に行く途中には、イギリス軍が撒いた毒入り食べ物を、知らずに食べた日本兵が多く亡くなったこと。死んだ日本兵の高官の埋葬跡から、後年になって竹が生えて、その骨が地上に上がってきたという話を聞いた。英軍は、爆撃だけでなく、毒入り菓子をばらまき、飢えた日本兵に食べさせる悪霊の如き戦術に、戦争勝者の事実を知った。かたや日本軍は、武器や弾薬どころか、食べるものがなく、体内に入ったのは、竹や野生の植物そして、マラリアや赤痢などの病原菌である。ただし根源は、辺境の地であるにもかかわらず、机上の立案で無謀な作戦を実施した結果、おびただしい犠牲者を出したのだ。取り返しのつかない悲惨な戦争の惨禍である。



トンへ寺院



シットタン埋葬地

3、村長や住民の親切について

情報収集の3か所の村長は、快く歓待してくれて、

村人は親切だった。仕事もあつたらうが、家へ上げ、お茶を出し、お菓子をだして、歓待していただいた。しかも、お菓子は、自分の村に店が無いので、隣の村まで買いにいったというので、申し訳なく食べることができなかった。村長さんらは、遺骨が埋められている場所を1時間もかけて案内してくれ、時には、荷物は持ってくれ、声をかけ心配してくれた。また、村人は、村内で我々を見ると声をかけて、野戦病院がどうの、畑で万年筆を拾ったなど、様々な情報を提供してくれた。戦争で村を焼かれて帰れず、2、3年山で過ごしたという村人は、日本に対する感情は色々あると思うが、極めて親切に対応してくれた。

4、旅を終えて

最後に、この慰霊と情報収集の旅を、企画立案し、作戦に投入された部隊を詳細に調べ、遺族や、資料の収集、そして現地での衣食住に関する機材、物品、食糧準備や参加者に対する連絡など、数えきれない業務をこなして、添乗員兼隊長を務めた池田隊長には、大変お世話になりました。また、準備資料の作成と手続きを行ったアジア太平洋顕彰会のスタッフの皆さん、送り出してくれた幹部の皆さん、そして、様々な能力を発揮し協力し目的達成に励んだ隊員の皆さん、お世話になりました。また、通訳のウエインさんは、通訳が卓越しているのは勿論だが、現地取材をはじめ、さまざまなコーディネートをしてくれた、大変お世話になりました。以上、全部まとめて、感謝を込めてありがとうございました。(都内立川市住)

インパール作戦地慰霊旅の感想

五十嵐 譲二



1月12日(木)早朝、無事成田空港に帰国できました。出発前の説明会ではかなり厳しい環境下の慰霊の旅になると不安と期待で一杯でしたが池田隊長はじめ、渡辺さん、島村さんのアテンドとメンバーの皆さんの協力により大変有意義で楽しい旅になり、ありがとうございました。また、現地旅行会社の行き届いた配慮、特にチャーター船の手すり、シャワーの取り付け、団楽場所の設置、寝具類の手配など感謝いたします。通訳のウエインさんによる各村への事前調査、長老、寺、僧侶や村民への訪問主旨説明など完璧で見事なものでした。191キロにわたる点在する各村への船での訪問調査には最低2日間は掛かったはずで、さぞかし大変であった事でしょう。この度の慰霊の旅で驚いたことはミャンマーの人々の宗教感、特に死者への考え方です。かつて後藤田正晴氏が「人間死んだらゴミになる」と言い、とんでもない事だと思いました。しかし、ミャンマーの人々は輪廻転生、死後3年後に生まれ変わり遺体はただのゴミで魂だけが尊いと考えると聞き大変驚きました。同じ仏教でも南方系の小乗(上座部)仏教は墓は造りません。しかし、タイなどは河に遺骨を流し吊りますが、火葬後の遺骨はそのままごみ捨て場に捨てるそうです。タウダットの寺院の床下に兵士の遺骨が埋葬されていましたが驚くべき事です。境内に入るには裸足になる神聖な寺にゴミが埋葬されていたのです。これはどう言う事かとウエインさんに聞きましたらおそらく、日本兵が埋葬しているところ見た僧侶が日本の習慣通り村人に協力してもらい埋葬したのではとの事でした。トンへでは村の中に、シットタンでは山中に、カレワでは河畔に埋葬されていましたが似たような配慮があったのではないのでしょうか。しかし、大半は白骨街道の如く野ざらしにされ、またはチンドウイン河に無造作に捨てられたことでしょう。

この度の慰霊の旅で親日的なミャンマーの人々への感謝と無謀な作戦により戦死された3万余人の兵士たちに心から哀悼の意を捧げます。(神奈川県藤沢市住)



トンへ渡河点



トンへ埋葬地

チンドウイン河を旅して

吉宮 正



以前からインパール作戦の主戦場の北緬を訪れ、散華された多くの御霊に感謝の心を捧げたいと思っていたところ、今回「NPO法人アジア太平洋英霊顕彰会」のお取計らいで実現出来ましたことに感謝し

以下にご報告致します。

一月七日、ホマリンには夕刻到着。宿の前には悠々と流れるチンドウインの流れ。今まさにアラカンの山に沈まんとする夕日が川面に映え、ホマリンの町並みを赤銅色に染め上げている。『この辺りは烈の渡河地点だったはず』と思い出し、七三年前の三月、『兵士達はどうの思いで夕日を眺めたのだろう』としばし感慨に浸る。一月八日、トンへとタウダットにて慰霊と情報収集し、パウンピンにて船中泊。一月九日、シットタンでの山中の慰霊祭のため、往復二時間歩いたが、ガイドの説明で「白骨街道の一部を歩いているな」と確信する。道は山吹色の粘土質の土で大小の起伏があり、歩きづらい。時々道が窪地で水溜まりがあり、幅の狭い板一枚が渡してあるだけ。恐らく雨季には窪地は池になり、道は泥濘となり、飢えて負傷した兵士達が難渋したと推測。モーライクにて船中泊。一月十日、カレワまで下がり、ミッタ河の河畔での慰霊と翌日のヤンゴンでの日本人墓地の慰霊ですべて日程終了。最後に船に乗る時や、悪路のとき文字通り手を差し伸べてくれた親切なミャンマーの人々と



ホマリン



フェリー乗込み



タウダット慰霊

七〇年もの間、我同胞の御霊を抱いてくれた印緬の大地に謝意を表したい。(山形県酒田市住)

日本軍手榴弾と機銃弾(薬莖)



シットタン村内



シットタン船着場

事務局よりお知らせ

- ①第11回ふるさと会総会を7月1日(土)11時ホテルグランドアーク半蔵門(皇居半蔵門:都内千代田区隼町1-1電話03-3288-1628)で開催予定。詳細は別途ご案内します。
- ②東北山形旅行を7月2日より2泊3日(山形県余目町乗慶寺佐藤幸徳中将菩提寺訪問:酒田市内:出羽三山参拝)で予定。詳細は別途ご案内します。
- ③29年度塩江新米申し込み(予約)受付いたします。詳細は別途ご案内します。
- ④東京香川県人会定期総会11月6日(月)18時東京プリンスホテル(大門)開催予定です。
- ⑤30年2月2日山田蔵人歴史保存会合を予定。詳細は別途ご案内します。
- ⑥29年度ふるさと会会費納入お願い。¥2,500 郵便局扱 口座記号 00150-2 口座番号 196649 加入者名(口座名)首都圏ふるさと会 又は みずほ銀行橋本支店 普通口座 2091725 口座名高松・塩江ふるさと会

編集後記

桜の時期に会報が出版できました。次号は今秋を予定いたします。

(編集人 小川奈々)